網走桂陽高校　図書だより　2022/07/22 発行　　文責：川口修平

ほんよも No.028

いよいよ夏休み！
本を読みましょう！

桂陽祭が終わり、明日からは体育祭。それが終われば全校集会、そして夏休みです。部活で忙しい人もいるでしょうが、それでも普段よりは時間がとりやすいはず。ぜひこの機会に本でも読みましょう。

「何か面白い本を見つけたい」という人、『桂陽図書の 100 冊』や先日図書委員を通じてお配りした『高校生に読んでほしい 50 冊』などを参考にしてください。ここに載っている本はだいたい図書室にあると思います。貸出冊数は無制限なので、好きなだけ借りて行ってください。思い出に残る、素敵な夏休みになりますように！

『高校生に読んでほしい５０冊』より

おとなになった今でも、
先生は、ずっとぼくの先生なんだ。

せんせい。

重松清　しげまつきよし　1963

先生、あのときは、すみませんでした――。授業そっちのけで夢を追いかけた先生。一人の生徒を好きになれなかった先生。厳しくすることでしか教えず子に向き合えなかった先生。そして、そんな彼らに反発した生徒たち。けれど、オトナになればきっとわかる、あのとき、先生が教えてくれたこと。ほろ苦さとともに深く胸に染みいる、教師と生徒をめぐる六つの物語。

¥649
ISBN978-4-10-134927-5
し-43-17

心の砂漠がオアシスに変わる。
世界中で愛された魔法の１冊。

星の王子さま

サン＝テグジュペリ　Antoine de Saint-Exupéry　1900-1944
訳　河野万里子

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐってから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった……。一度読んだら必ず宝物にしたくなる、この宝石のような物語は、刊行後七十年以上たった今も、世界中でみんなの心をつかんで離さない。最も愛らしく毅然とした王子さまを、優しい日本語でよみがえらせた、新訳。

¥528
ISBN978-4-10-212204-4
サ-1-3

賢治の言葉はいつだって
心の背中を押してくれる。

新編 銀河鉄道の夜

宮沢賢治　みやざわけんじ　1896-1933

貧しく孤独な少年ジョバンニが、親友カムパネルラと銀河鉄道に乗って美しく哀しい夜空の旅をする、永遠の未完成の傑作である表題作や、「よだかの星」「オツベルと象」「セロ弾きのゴーシュ」など、イーハトーヴォの絢爛にして切なく多彩な世界に、「北守将軍と三人兄弟の医者」「饑餓陣営」「ビジテリアン大祭」を加えた14編を収録。賢治童話の豊饒な醍醐味をあますところなく披露する。

¥473
ISBN978-4-10-109205-8
み-2-5

死者との再会を叶える「使者（ツナグ）」。
一生に一度、あなたが会いたいのは誰？

ツナグ

辻村深月　つじむらみづき　1980

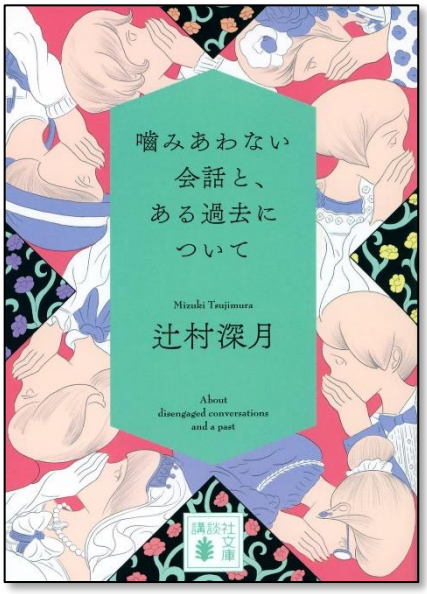
一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者（ツナグ）」。突然死したアイドルが心の支えだった OL、年老いた母に癌告知出来なかった頑固な息子、親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生、失踪した婚約者を待ち続ける会社員……ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いを抱えた一夜の邂逅は、何をもたらすのだろうか。心の隅々に染み入る感動の連作長編小説。

¥825
ISBN978-4-10-138881-6
つ-29-1

～言葉の行き違いから生まれる恐怖～

『噛みあわない会話と、ある過去について』（辻村深月）

内容・あらすじ



小学校で教師をしている松尾美穂。明日、ある教え子が学校を訪れることになっており、学校ではその話題で持ちきりでした。その教え子の名は高輪佑といい、現在は 25 歳の青年。今や国民的アイドルグループの一員として知らない人はいない有名人です。

彼の小学校時代を知る美穂は、周りの人から彼の当時の印象をよく聞かれるのですが、美穂が覚えている小学校時代の彼は、おとなしくて地味な生徒でした。

そして翌日、TV 番組の収録で佑が小学校を訪れ、収録後に美穂とも二人で話す機会がありました。再会を喜ぶ美穂に向かって、佑は思わぬ言葉をぶつけます――。（「パッとしない子」）

川口先生の感想

幽霊もゾンビも出てきませんが、ものすごく怖い小説です。背筋が凍ります。

この本は「過去に関する、それぞれの認識の違い」を描いた短い話が４編収められている連作集です。私は２編目の『パッとしない子』で大出血しました。私だったらアイドル（しかも教え子）にこんなことを言われたら一生立ち直れないと思います。自分の発言が違うふうにとらえられて一方的に恨まれる、というのはよくあることですが、これはまさにそんな話でした。みなさんの中にもそういう目に遭った人がいるかもしれません。作中で美穂はこう思います。

「言ったかどうかわからない。だけど、問題はそんなことじゃない。問題は、佑が美穂がそう言ったと思っている、そう記憶している、ということだ。」

相手が「あなたはこう言った」と記憶していたら、もうそれを打ち消すことは不可能です。こういう時は一体どうしたらいいのでしょうか。背筋を凍らせながら深く深く考えました。気になった人、ぜひ図書室へ。

図書購入希望リクエストはこのフォームで受け付けています！→